

日本災害情報学会第 31 回学会大会に参加しました (2025/11/7-9)

場所：関西大学 高槻ミュージズキャンパス (高槻市)

参加者：佐藤翔輔准教授，成田 (D2)，浅野 (M2)，梶 (M1)

11月7日(金)～9日(日)の3日間、関西大学高槻ミュージズキャンパス(高槻市)で日本災害情報学会が主催する「日本災害情報学会第31回学会大会」が開催されました。同学会は、「災害情報」をキーワードに、防災・減災に役立つ災害情報や、その伝達・受容のあり方などを調査・研究し、その成果を社会に提言することを目的としている学会です。年2回の学会大会が行われ、年4回のニュースレターの発行、年1～2回のシンポジウムの開催など、研究発表による情報共有や交流が行われています。本大会は、過去最多の参加者となり、議論や質疑が盛んにおこなわれていました。当方は、初めての学会参加であり、自治体関係者など多様な立場の方々から、自分の想定にはなかった観点・視点での意見をいただき、研究の方向性をより具体的に検討する上で大変参考になりました。

当研究所からは、口頭発表セッションで3件、ポスターセッションで1件の研究発表を行いました。各発表者の発表題目等は次の通りです：

【口頭発表セッション】

- 佐藤翔輔，新家杏奈，千葉智史，成田峻之輔，三上雄大，梶明日香，岡元徹，今村文彦：被災体験を伝える方法としてVRは語りを超えることができるか(第1報)
- 成田峻之輔，和泉慶之佑，佐藤翔輔，今村文彦：4K ライブカメラ映像への物体検出アルゴリズム適用による津波発生時における海水浴客数自動推計手法の検証
- 浅野仁作，佐藤翔輔，今村文彦：モバイル空間統計と社会調査を用いた中小規模洪水災害での復興過程の解析—2023年7月秋田豪雨の事例—

【ポスターセッション】

- 梶明日香，佐藤翔輔，新家杏奈，今村文彦：「津波高さの直接的な可視化」が津波から避難するための建物選択に及ぼす影響に関する基礎的実験



佐藤翔輔准教授

成田 (D2)

浅野 (M2)

梶 (M1)

(文責：梶)